

令和 7 年度

運営に関する計画・自己評価

令和 7 年 4 月

大阪市立夕陽丘中学校

令和7年度 教育指導の計画

[学校運営の重点]

「生きる力」を育む感動ある教育活動を推進し、思いやりあふれる学校をめざす。

重点目標

心豊かに力強く生き抜き未来を切り拓く力を育成する。

《具体的方策》

1. 基礎的・基本的な内容の確実な定着と、生徒の活発な意見をもとにした学習活動を充実し、自ら考え、意欲的に解決する力を育む。
2. 豊かな体験的活動を通して、個性を尊重し、互いに支えあう集団の育成を図り、思いやる心や感動する心を育む。
3. 自らの健康や体力に関心をもち、健康でたくましい心身を養い、自律的な生活習慣や態度を育む。
4. 今日的課題に対応する教育を充実させ、自らの判断で、生きるべき道を選択し、決定するとともに、社会の変化に的確に対応できる力を育む。
5. 元気アップ地域本部と連携して、地域・保護者の学校支援体制を構築し、家庭や地域の教育力を活かした教育活動を進めるなかで、地域行事への積極的な参加とともに、地域の一員である自覚と感謝する心を育む。

《努力目標》

何ごとも「心」をこめて行動しよう。

1. 気持ちよく挨拶のできる生徒
2. 心をこめて人の話の聞ける生徒
3. ルールやマナーを守る生徒
4. 自らすすんで掃除をする生徒

1 学校運営の中期目標

現状と課題**【安全・安心な教育の推進】**

- ・不登校の状態にある生徒は昨年度末 55 名で一昨年度の 50 名と比べ、増加している。また、新たに不登校になる生徒の割合は 4.4%で、前年度の 3.8%より増加している。校内にステップアップルームを新設したことで、不登校生 55 名のうち 12 名が利用でき、一定の成果がみられた。スクリーニング会議を活用し、スクールカウンセラー、スクールソーシャルワーカー等と連携して対応を行っている。引き続き生徒に寄り添った対応を行う。
- ・「学校生活のルールとマナーを守るよう心がけている」という項目への肯定的な回答の割合が 97.5%と、生徒の規範意識は高い。現在の落ち着いた状況をより向上させるため、教職員が連携し生徒に寄り添った指導と支援を今後も継続して行う。
- ・「大地震などの災害が起こったときに、どのように行動するかを考えている」に対する肯定的な回答は 84.9%で、一昨年の 82.4%から増加した。地震のみならず、様々な自然災害が発生する中、日頃からの防災・減災への意識づけは非常に重要である。引き続き、避難訓練だけでなく、学校生活の様々な場面において、防災・減災への意識づけと取り組みを行っている。
- ・「自分には良いところがあると思う」という項目の肯定的な割合は 83.4%であり、一昨年度に続き 80%を超え、安定してきた様子が感じられる。道德の授業だけでなく、他の授業においても生徒が主体的に学習に取り組めるよう工夫を図っている。また、学校行事、学年行事において生徒が主体的に取り組める活動の機会を精選し、自尊感情を高めることができるよう工夫をしていく。
- ・全国調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目の肯定的な回答は 74.3%である。2 年生で職場体験を実施するとともに、今後も身近な大人と接する機会を設け、生徒が自分の将来についての展望をしっかりと描けるよう、系統立てた取り組みを進めていく。

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

- ・「体調面での自己管理ができていく」の項目の肯定的な回答は 82.8%で現状維持で推移している。全校集会で生徒会役員が感染症対策について全校生徒に呼びかけをしたり、保健委員会でポスターの掲示、石鹸の取替や消毒作業をしたりする等、生徒が主体的に活動する場面もある。
- ・「生徒間で話し合う活動をよく行っていたと思う」の肯定的な回答は 93.8%で昨年度よりは少しだけ減少したが、高水準で推移している。班活動の実践も増えてきた。生徒の意識の中に、自らの意見を発し、他人の意見を傾聴するということが根付いてきている。教科指導で「読解力を中心とした思考力・判断力・表現力等の育成を意識した授業デザイン」に学校全体で取り組んできた成果であると考えられる。
- ・3 年生のチャレンジテストの結果、76 期生の対府平均比は、1.22 (5 教科)であった。昨年度は、1.21 (5 教科)であり、同一母集団で比較した場合、昨年度から微増した。2 年生のチャレンジテストの結果、77 期生の対府平均比は、1.10 (5 教科)であった。昨年度は、1.12 (3 教科)であり、同一母集団で比較した場合、昨年度を少しだけ下回った。同じく 1 月に実施した 1 年生のチャレンジテストの結果、78 期生の対府平均比は、1.17 (3 教科)であった。話し合い活動を取り入れた授業や ICT 機器を活用した授業など、研究授業や研究協議に

より授業力が向上したことが、様々な授業実践につながり、学力向上に結び付いていると考えられる。また、加配教員や学びサポーターを活用し、習熟度別少人数授業やT・Tを行い、個に応じた指導の充実をはかる。

- ・卒業段階で英検3級以上の英語力を有する生徒は、3年生では85.0%であった。今後も4技能を活用する場면을授業の随所に取り入れ、さらなる向上をはかる。
- ・全国体力調査結果は、体力合計点のT得点では男子は全国平均を1.0ポイント上回り、女子も1.1ポイント上回った。運動場が狭いという環境の中、各種目の特性を生かしたウォーミングアップや技能習得のためのトレーニングを工夫し、さらなる体力の向上をはかる。
- ・「運動やスポーツをすることは好きですか」の項目の肯定的な回答は、男子は70.5%、女子は46.2%であった。男子は前年度より大きく下回り、女子は少しだけ下回った。保健体育の授業の他、学校行事、学年行事において運動やスポーツと関連付けた取り組みを行い、生涯を通じて運動やスポーツを愛好する心情を引き続き育てていく必要がある。

【学びを支える教育環境の充実】

- ・「ICT機器を活用することにより、学習に対する興味・関心が高まった」と回答する生徒は、82.8%で高い水準を維持できている。今後も1人1台学習者用端末の活用をさらに進め、端末を授業で有効活用し、生徒の基礎・基本となる学力の定着をはかる。
- ・全国調査の「読書は好きですか」の項目の肯定的な回答は65.6%であり変化はなかった。引き続き、読書啓発として、図書委員会の図書便りの作成やおすすめ図書の設置、また各学年での朝の読書や1、2年生においてビブリオバトルの取り組みを行っていく。

中期目標

【安全・安心な教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。

【基本的な方向1 いじめへの対応】

- 毎年度末の校内調査において、不登校生徒の割合を、毎年前年度より減少させる。

【基本的な方向1 不登校への対応】

- 令和7年度の校内調査の「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を97%以上にする。【基本的な方向1 問題行動への対応】

- 令和7年度の校内調査の「大地震などが起こったときに、どのように行動するか考えている。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を82%以上にする。

【基本的な方向1 防災・減災教育の推進】

- 令和7年度の校内調査の「スマホの危険性を理解し、適切な使い方ができている」という項目について、肯定的な回答の割合を80%以上にする。【基本的な方向1 安全教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、令和3年度より4%増加させる。

【基本的な方向2 道徳教育の推進】

- 令和7年度の全国学力・学習状況調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、71%以上にする。

【基本的な方向2 キャリア教育の推進】

- 令和7年度の校内調査の「学校では、命の大切さや人権の大切さについて学ぶ機会がある。」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、令和4年度からの4年間で1.6ポイント増加させる。【基本的な方向2 人権を尊重する教育の推進】

○毎年度の校内調査の「友達一人ひとりの違いを大切にし、人の気持ちのわかる人間になりたいと思う。」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、毎年前年度以上にする。

【基本的な方向2 インクルーシブ教育の推進】

【未来を切り拓く学力・体力の向上】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の思考・判断・表現（言語についての知識・理解・技能）に関する項目の平均正答率を、令和3年度より1.2ポイント増加させる。

【基本的な方向4 言語活動・理科教育の充実】

○令和7年度の校内調査の「学校の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を、55%以上にする。【基本的な方向4 言語活動・理科教育の充実】

○令和7年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階でのC E F R A 1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、56%以上にする。【基本的な方向4 英語教育の強化】

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の体力合計点のT得点(※)を、男女それぞれ令和3年度より1ポイント向上させる。 ※全国平均を50とした時の相対的な位置

【基本的な方向5 体力・運動能力向上のための取組】

○令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、最も肯定的に答える生徒の割合を令和4年度より5ポイント向上させる。【基本的な方向5 体力・運動能力向上のための取組】

○規則正しい生活を身に付けている生徒の割合（全国学力・学習状況調査の「朝食を毎日食べていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」、「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合の平均）を、令和7年度調査において、90%以上にする。【基本的な方向5 健康教育・食育の推進】

【学びを支える教育環境の充実】

○令和7年度の全国学力・学習状況調査の「1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童生徒の割合を、70%にする。【基本的な方向6 ICTを活用した教育の推進】

○令和7年度の校内調査の「学習者用端末などのICT機器を活用することにより、学習に対する興味・関心が高まった」の項目について、肯定的な回答する生徒の割合を、85%以上にする。【基本的な方向6 ICTを活用した教育の推進】

○令和7年度の教員の勤務時間の上限に関する基準を満たす教職員の割合を令和4年度より3ポイント増加させる。【基本的な方向7 働き方改革の推進】

○令和7年度の学校図書館の1日の平均来館者数（授業を除く）を令和4年度より5%増加させる。【基本的な方向8 学校図書館の活性化】

○令和7年度の校内調査の「学校の内外を含め、地域の方と共に行事に参加している。」の肯定的な回答する生徒の割合を、60%以上にする。

【基本的な方向9 地域学校協働活動の推進】

2 中期目標の達成に向けた年度目標（全市共通目標を含む）

【安全・安心な教育の推進】

①令和7年度末の校内調査の「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか」に対して、最も肯定的な「そう思う」と回答する生徒の割合を85%以上にする。

- 【基本的な方向 1 いじめへの対応】 R6:84.3% R5:76.7% R4:84.9%
- ②令和 7 年度末の校内調査において、不登校生徒の在籍比率を前年度より減少させる。
- 【基本的な方向 1 不登校への対応】 R6:4.4% R5:3.8% R4:1.8%
- ③令和 7 年度の校内調査の「学校のきまり・規則を守っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合の現状維持に努める。
- 【基本的な方向 1 問題行動への対応】 R6:97.5% R5:98.2% R4:97.8%
- ④令和 7 年度の校内調査の「大地震などが起こったときに、どのように行動するか考えている。」に対して、肯定的に回答する生徒の割合を 80%以上にする。
- 【基本的な方向 1 防災・減災教育の推進】 R6:84.9% R5:82.4% R4:81.3%
- ⑤令和 7 年度の校内調査の「スマホの危険性を理解し、適切な使い方ができている」という項目について、肯定的な回答の割合を 80%以上にする。
- 【基本的な方向 1 安全教育の推進】 R6:95.7%
- ⑥令和 7 年度の校内調査の「自分にはよいところがあると思いますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、80%以上にする。
- 【基本的な方向 2 道德教育の推進】 R6:83.4% R5:81.1% R4:75.9%
- ⑦校内アンケートにおいて、「清掃活動は積極的に取り組んでいる」という項目について肯定的な回答の割合を 90%以上にする。
- 【基本的な方向 2 社会性の育成】 R6:96.1% R5:95.9%
- ⑧令和 7 年度の校内調査の「将来の夢や目標を持っていますか」の項目について、肯定的に回答する生徒の割合を、前年度より増加させる。
- 【基本的な方向 2 キャリア教育の推進】 R6:74.3% R5:62.2% R4:78.6%
- ⑨令和 7 年度末の校内調査の「誰もが安全・安心に取り組むことができ、感動・感激する学校行事がある」の項目について、肯定的な回答の割合を 70%以上にする。
- 【基本的な方向 1 安全・安心な教育環境の実現】
- ⑩今年度、学期に 1 回は、特別支援教育に関する研修会を実施する。
- 【基本的な方向 2 インクルーシブ教育の推進】
- 【未来を切り拓く学力・体力の向上】**
- ①令和 7 年度の中学校チャレンジテストの平均点の対府比を、同一母集団において経年的に比較し、いずれの学年も前年度より 0.01 ポイント向上させる。
- 【基本的な方向 4 「主体的・対話的で深い学び」の推進】
- R6:76 期 1.22(5 教科)、77 期 1.10(5 教科)、78 期 1.17(3 教科)、
R5:75 期 1.16(5 教科)、76 期 1.21(5 教科)、77 期 1.12(3 教科) R4:75 期 1.15(5 教科)、76 期 1.20(3 教科)
- ②令和 7 年度の校内調査の「学校の友達との話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」の項目について、最も肯定的に回答する生徒の割合を、58%以上にする。
- 【基本的な方向 4 言語活動・理科教育の充実】 R6:63.4% R5:57.8% R4:57.0%
- ③令和 7 年度の大阪市英語力調査の中学校卒業段階での C E F R A 1 レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合を、70%以上にする。
- 【基本的な方向 4 英語教育の強化】 R6:85.0% R5:73.5%
- ④令和 7 年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査における体力合計点の対全国比を、男女ともに前年度より 1 ポイント向上させる。
- 【基本的な方向 5 体力・運動能力向上のための取組】
- R6:男子 51.0 女子 51.1 R5:男子 52.1 女子 51.1 R4:男子 48.8 女子 52.5

⑤令和7年度の全国体力・運動能力、運動習慣等調査の「運動（体を動かす遊びを含む）やスポーツをすることは好きですか」の項目について、肯定的に答える生徒の割合を前年度以上にする。【基本的な方向5 体力・運動能力向上のための取組】

R6:男子 70.5% 女子 46.2% R5:男子 80.3% 女子 46.8% R4:男子 61.7% 女子 39.1%

⑥規則正しい生活を身に付けている生徒の割合（全国学力・学習状況調査の①「朝食を毎日食べていますか」、②「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」それぞれに対して、肯定的な回答をする生徒の割合の平均）を、令和7年度調査において、90%以上にする。

【基本的な方向5 健康教育・食育の推進】

R6:①92.4% ②96.6% R5:①93.0% ②86.0% R4:①91.7% ②94.7%

【学びを支える教育環境の充実】

①令和7年度の全国学力・学習状況調査の「1, 2年生のときに受けた授業で、コンピュータなどのICT機器をどの程度使用しましたか」の項目について、「ほぼ毎日」と答える児童生徒の割合を、20%以上にする。【基本的な方向6 ICTを活用した教育DXの推進】

R6:6.8% R5:11.0% R4:3.0%

②授業日において、生徒の8割以上が学習者用端末を活用した日数が、年間授業日の50%以上にする。〔ただし、学校行事等ICT活用が適さない日数を除く〕

【基本的な方向6 ICTを活用した教育DXの推進】年間達成率 R6:3.5%

③令和7年度の校内調査の「学習者用端末などのICT機器を活用することにより、学習に対する興味・関心が高まった」の項目について、肯定的な回答をする生徒の割合を、85%以上にする。【基本的な方向6 ICTを活用した教育DXの推進】R6:82.8% R5:86.1% R4:86.0%

④毎月の「教員の一人当たり平均時間外勤務時間」を令和6年12月の「45時間07分」よりも減少させる。【基本的な方向7 働き方改革の推進】

夕陽丘中平均…R6:45時間07分 R5:46時間10分

⑤校区小学校と校種や教科を越えた連携を図り、指導法について研修し、相互参観を実施する。

【基本的な方向7 教員の資質向上・人材の確保】

⑥令和7年度の学校図書館の1日の平均来館者数（授業を除く）を昨年度より増加させる。

【基本的な方向8 学校図書館の活性化】R6:27.5人/日 R5:26.9人/日 R4:19.7人/日

⑦令和7年度の校内調査の「学校の内外を含め、地域の方と共に行事に参加している。」の肯定的な回答する生徒の割合を、52%以上にする。

【基本的な方向9 地域学校協働活動の推進】R6:63.6% R5:51.8% R4:48.1%

⑧令和7年度末に年次有給休暇を10日以上取得する教職員の割合を90%以上にする。

【基本的な方向7 人材の確保・育成としなやかな組織づくり】

【その他】

3 本年度の自己評価結果の総括